

公益財団法人天風会 令和3年度事業報告書

(抜粋掲載)

令和3年度も、一昨年から続く新型コロナウイルスの影響により、当初計画していた行事の多くをオンラインによる開催へと変更せざるを得ず、大きな試練と向き合うこととなりました。一方、このような状況の中において、全国各地でオンラインによる行事がますます盛んに行われるようになり、今後の財団事業や普及活動のあり方を見直すための契機となりました。

引き続き、常に想定外の事態への対応を求められる年度ではありましたが、社会の変化に対応し、時代の流れに調和する柔軟さを大切にしながら、天風哲学、心身統一法を次の世代へと繋ぐ体制の具体的構想と準備に力を注いでまいりました。

I 公益目的事業

今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初計画されていた各行事について、中止または開催方法の変更などの検討を随時行い、主にオンラインまたはハイブリッド形式により開催した。

1 「心身統一法」普及事業

(1) 会館行事（財団主催行事）

- ①講習会（オンライン2クール、集合型1クール）
- ②土曜行修会（オンライン12回）
- ③天風哲学入門セミナー（オンライン2日間）
主に初心者を対象として、天風哲学の基本的な内容について解説。
- ④天風哲学ビジネスセミナー（オンライン2回）
- ⑤研修科（東京の会へ運営を委託し開催4回）
- ⑥オンライン特別行修会（修練会中止に伴い9月17日～20日に開催）
- ⑦「信念の奇跡」天風哲学実践セミナー（オンライン）
書籍『信念の奇跡』の出版に合わせて開催
- ⑧TC-WOMAN（オンライン）
オンライン教室2クール／新春講演会
- ⑨医学・科学レクチャーシリーズ（オンライン）
心身統一法を医学的な見地から解説することを目的として開催

(2) 委託行事

全国の各賛助会へ運営を委託し、講習会、研修科、特別講演会等を開催した。全国的に多くはオンライン形式での開催となったが、集合型で実施する場合には、財団が制定したガイドラインに従って運営することで、感染防止対策に努めながら実施した。

また、オンライン配信を中心とした特別行修会を鎌倉、神戸、大阪の3賛助会へ委託して開催した。

(3) 賛助会行事

各賛助会で自主的に開催される行修会や勉強会等について、運営指導や助言を行った。

(4) 外部講演会

- ①よみうりカルチャーセンター：講座「運命を拓く」中村天風の教え
全6会場（恵比寿、錦糸町、荻窪、川越、川口、横浜）で実施した。
- ②西宮市公民館活用促進プロジェクト（神戸の会に運営を委託）

(5) 賛助会への助成・運営支援等

- ①全国19賛助会に対して、活動補助金を配賦した。

②賛助会代表者会議を1回開催した。

2 調査研究活動

- ①教務委員会の開催（6回）
- ②講師ライブラリーの運用
- ③講師養成プロセスの改訂
- ④講師養成勉強会の実施
- ⑤「心身統一法」行修リーダーの審査と育成
- ⑥行事プログラムの監修
- ⑦出版物の監修
- ⑧教学的研究

3 出版広報・コンテンツ事業

- ①財団出版物の企画・制作
- ②財団出版物及び監修出版物等の販売
- ③財団機関誌「志るべ」（月刊）の発行
- ④出版物の発行に向けた検討
- ⑤ホームページの改修（令和4年2月に財団Webサイトのリニューアルを実施）
- ⑥広報活動 Webサイトやメールマガジン、SNS等を活用して広報を行った。
- ⑦財団動画・音声配信サイト 令和3年4月より、月額3,300円の有料配信を開始した。
- ⑧財団コミュニティサイトの運営

II 収益事業等

- ①一般社団法人アイピーシーとの天風会館5階の賃貸契約を継続
- ②1階と4階は株式会社ティーケーピーに委託し、賃会議室として運用
- ③東京の会との地下1階一室の賃貸契約を継続
- ④飲料メーカー（5社）と自動販売機設置契約を継続

III 法人運営に関する事項

- ①組織 危機管理委員会において、新型コロナウイルス感染防止に関するガイドラインを作成、適宜見直しを行い、行事運営に関する指導を実施した。
- ②会議 （1）理事会を6回、評議員会を2回開催した。
（2）各委員会及び担当理事ごとに会議を行い、各種課題の検討にあたった。

以上